

平成 30 年度 第 4 回未来創造セミナー  
チャレンジ!!オープンガバナンス(COG)2018  
～アイデアを生み出す市民と行政の連携の場づくり～  
実績報告

1. 開催日時:平成 30 年 10 月 19 日(金) 16 時から 17 時 30 分
2. テーマ:チャレンジ!!オープンガバナンス(COG)2018  
～アイデアを生み出す市民と行政の連携の場づくり～
3. 話題提供者:
  - 奥村 裕一 氏(COG2018 運営コーディネーター/東京大学公共政策大学院客員教授)
  - 草津市子ども家庭部幼児課担当
  - 草津市都市計画部都市計画課担当
4. 開催場所:UDCBK
5. スケジュール  
16 時～16 時 40 分 話題提供  
チャレンジ!!オープンガバナンス(COG)2018～アイデアを生み出す市民と行政の連携の場づくり～  
16 時 40 分～17 時30分 地域課題について
  - ①革新的な保育士確保策のアイデア 草津市子ども家庭部幼児課
  - ②地域の人々が、訪問者の視点で、訪れて歩いて巡りたくなる街並みを考えるためのアイデア 草津市都市計画部都市計画課
6. 参加人数:20 名
7. 報告  
(1) チャレンジ!!オープンガバナンス(COG)2018～アイデアを生み出す市民と行政の連携の場づくり～

草津市は第 1 回の COG2016 から 3 回連続で COGに参加しているが、過去 2 回はいずれもポスター展示に留まっている。そこで、運営コーディネーターの奥村先生をお招きし、過去の COG コンテストの優秀事例について御紹介いただいた。

- 第1回のCOG2016の総合賞を受賞した東京都中野区の事例を御紹介いただいた。中野区の地域課題「家庭養護の推進」に対して、市民団体から「地域とつながる「子育て」&「里親制度」～ママからファミサポへ、ファミサポから里親へ～」という提案があった。市民団体の提案も素晴らしいが、中野区が市民団体の熱い思いをしっかりと裏付けるデータを提供し、アイデアを政策化したことである(根拠に基づき政策運営)。今でも中野区はこの提案をベースに政策を立案し、実施しているところである。
- オープンガバナンス、は、2009年に米国のオバマ大統領がオープンガバメントとして提唱した。オープンガバメント三原則として、「透明性」、「国民参加」、「協業」をあげている。オープンガバメントをベースに、オープンデータ、オープンデジジョン、オープンサービスを推進することがオープンガバナンスである。
- 昨年度COG2017の総合賞は京都市の地域課題「オープンデータと自転車をはじめとした観光資源の融合による持続可能な観光・交通を目指して」に対して、市民・学生の混成チームから「自転車につながる人・街・自然・文化!～chariP naViと共創コミュニティデザイン～」の提案があった。この提案の素晴らしいところは、実際にアプリのプロトタイプを創ったことだが、創る際に市や府と協力してワークショップなどを開催したこと、そして、市の統計解析担当の積極的なコミットメントがあったことである。
- このようにコンテストの評価はまずは地域課題の解決策のアイデアがいいこと、そして、そのアイデアを政策化するために必要な根拠となるデータを自治体が提供し、さらには一緒に政策化することである。

## (2) 地域課題について

続いて、市の各担当よりCOG2018にエントリーした地域課題について説明した。

- 革新的な保育士確保策のアイデア
  - 平成27年度から「子ども・子育て支援新制度」がスタート。保育の「量」の拡充と「質」の確保が求められている。
  - 草津市でも「草津市子ども・子育て支援事業計画」を策定した。市内の保育所・幼稚園等は公民併せて66施設があり、平成30年4月1日時点での草津市の待機児童はゼロである。
  - 平成26年度は100人近く待機児童がいたが、解消した。しかし、年度途中からの入所希望者増等があり、期中期末には待機児童が発生する。
  - また「量」の確保には、保育士の確保が課題である。保育士の有効求人倍率が滋賀県は4.99であり、全国平均3.38より高い。県内19自治体のうち、18自治体が、保育士人材が不足していると回答している。
  - 保育所は開所時間が11時間であり、特別支援が必要な子どもや、0歳児保育も増加しており、保育現場はリスクを伴う対応が増加している。また保育士も自分の子育てや家庭生活を大事にしたいと思っているが、長時間保育対応のためそのこ

とがままならないという課題を抱えている。

- 保育の質は確保したい。そのため、保育士にはノンコンタクトタイム(教材研究の時間の確保)など学び続ける場を提供し、「草津市で保育をしたい！」につながるようにしていきたい。
  - 一方で、「できるだけたくさん受け入れてほしい」という要望と、「余裕をもって、充実した保育をしたい」という保育現場の思いを両立させることが難しい。
  - 保育士が勤務先を決めるポイントは、地方では通勤時間が自宅から 15～30 分以内、保育実習した保育施設、休みや給与や残業の状況、保育の考え方などである。保育士の「働きたい！」につなげるためには、働きやすさと教育・保育施設としての「魅力」である。
  - 草津市はこれまで、「潜在保育士の確保策」、「民間保育園の保育士の処遇改善やアピール」、「研修・研究の充実」に取り組んできた。
  - 「潜在保育士の確保策」として、保育士再就職トライアル研修を実施した。その他、潜在保育士だけではなく新卒者も対象に保育サロン(カフェ)や民間の保育園バスツアーなどを実施した。
  - 「民間保育園の保育士の処遇改善やアピール」として、民間保育園への草津市独自の補助制度を実施している。民間保育園のパネル展示も実施した。
  - 草津市では国の基準より手厚い配置をするなど「研修・研究の充実」にも取り組んできた。
  - このように様々な保育士確保策を実施してきたが、未だ人材不足は解消していない。
  - そこで、次のようなアイデアを募集したい。
    - ◇ 草津市の保育施設に就職してくれるようになるための革新的・創造的・効果的な対策。
    - ◇ これまでと違う、潜在保育士の発掘。
    - ◇ 「草津市で働きたい！」と感じてもらえるような対策。
    - ◇ 草津市の保育施設に興味や関心をもってもらえる効果的な対策。
- 地域の人々が、訪問者の視点で、訪れて歩いて巡りたくなる街並みを考えるためのアイデア
    - 草津市では現在、人口減少や高齢化が進行する将来においても持続可能なまちであり続けるために、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」のまちづくりに向けて、「立地適正化計画」、「草津市版地域再生計画」、「地域公共交通網形成計画」の 3 計画の策定に取り組んでいる。
    - 資料をもとに 3 計画について説明。3 計画には考え方が中心となっており、具体策は地域の人々が中心となり、考えていくことになっているが、説明会などの参加が低調である。

- 平成 29 年度の市民意識調査によれば、「総合的に住みやすいまち」ではあるが、「公共交通の便がよい」では「そう思う／やや思う」と「あまりそうは思わない／そうは思わない」が拮抗している。「あまりそうは思わない」が、「まちに誇れるもの(ブランド)がある」と「市民主役のまちづくりが進んでいる」が多い。
- 「市民であることに誇りや愛着を持っている」については、「ややそう思う」が最も多く 37.5%、ついで「どちらとも言えない」が 33.9%となっている。
- 地域課題は「地域の人々が、訪問者の視点で、訪れて歩いて巡りたくなる街並みを考えるためのアイデア」であるが、目指すは、自分たちの地域に誇りをもってもらい、住民が主役になってまちづくりを進めていくことである。
- 市民が地域に誇りをもってもらうにはどうすればよいかアイデアを伺いたい。

### (3) 奥村先生からのアドバイス

二つの地域課題に対して、それぞれアイデアの出し方について御助言をいただいた。

- 革新的な保育士確保策のアイデア  
保育士の確保の目的が子どもへの質の高い保育の提供であれば、どうすれば質の高い保育を提供できるかを深く考えていけば、結果的に質の高い保育士を確保できるのではないかと。
- 地域の人々が、訪問者の視点で、訪れて歩いて巡りたくなる街並みを考えるためのアイデア  
シビックプライド(地域への愛着)の形成が目的であれば、みんなでキャッチコピーを考え、その根拠を示すデータを集めることから考えてみてもよい。

17 時半のセミナー終了後、地域課題ごとに二班に分かれ、それぞれの地域課題について参加者と市の担当職員と UDCBK 閉室の 20 時 15 分まで活発に意見交換がなされた。

## 8. まとめ

今回のセミナーは話題提供と地域課題の説明と盛りだくさんであったため、セミナーでは対話の時間を設けず、セミナー終了後にテーマごとにテーブルを割り当て、自由参加で意見交換する場を設けました。それぞれのテーマのテーブルでは、市の担当職員と参加者が地域課題に対して活発に意見交換を行い、両テーブルともに UDCBK 閉室時間の 20 時 15 分まで続けました。ひとつのテーブルでは、次回の意見交換の日程を調整していました。

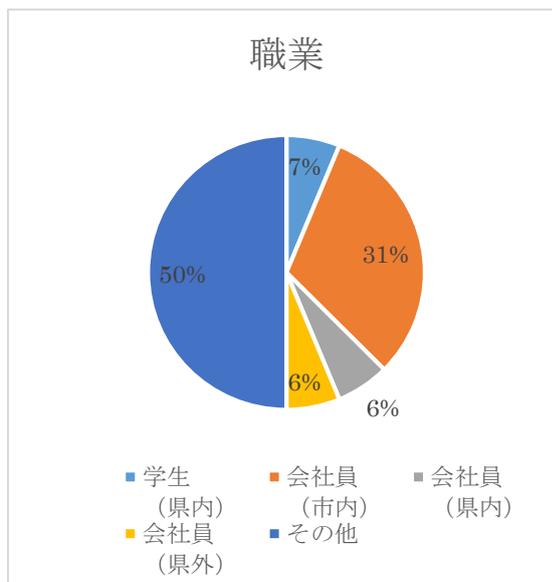
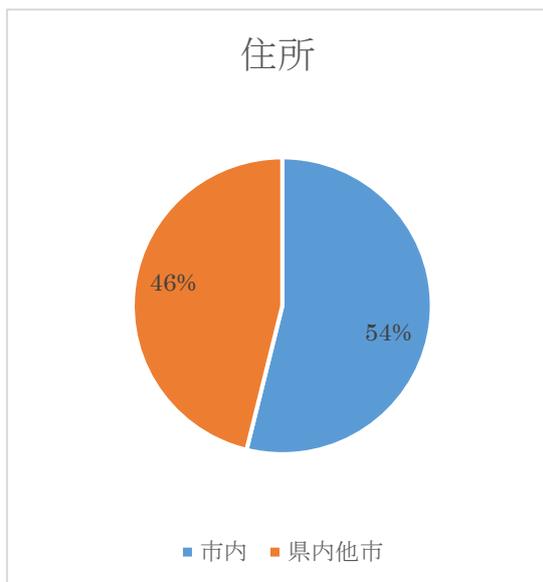
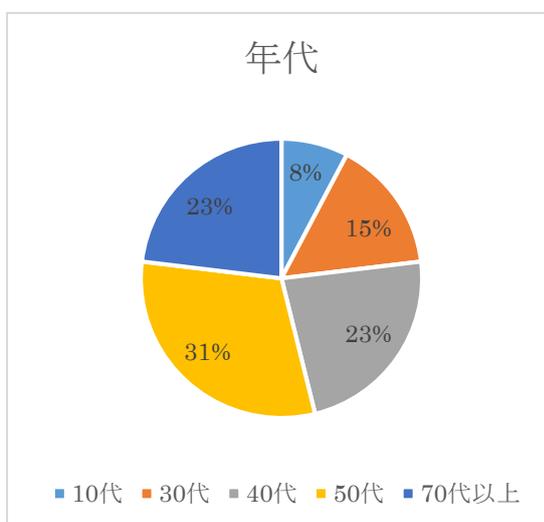
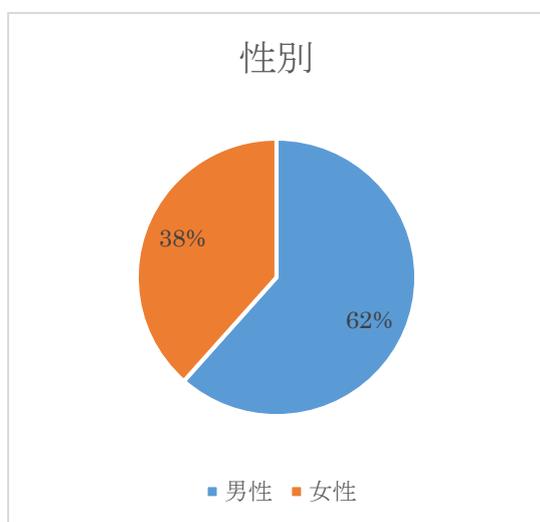
このように UDCBK では、未来創造セミナーで未来のまちづくりにつながる話題提供や問題提起を行い、その話題や問題に関心を持った人々が自発的に話し合い、包括協定締結大学など様々な支援を得ながら、調査研究と小さな社会実験を積み重ね、解決策を考えるプラットフォームを目指しています。UDCBK がフェリエ南草津に開設してから 2 年、現在の場所に移転してから 1 年 3 か月、ようやくカタチができてきたように感じます。

今回の事例を参考に、時空間に制約の少ない占有空間であることを活かした今回のような手法も今後のセミナーで取り入れていきたいと考えています。

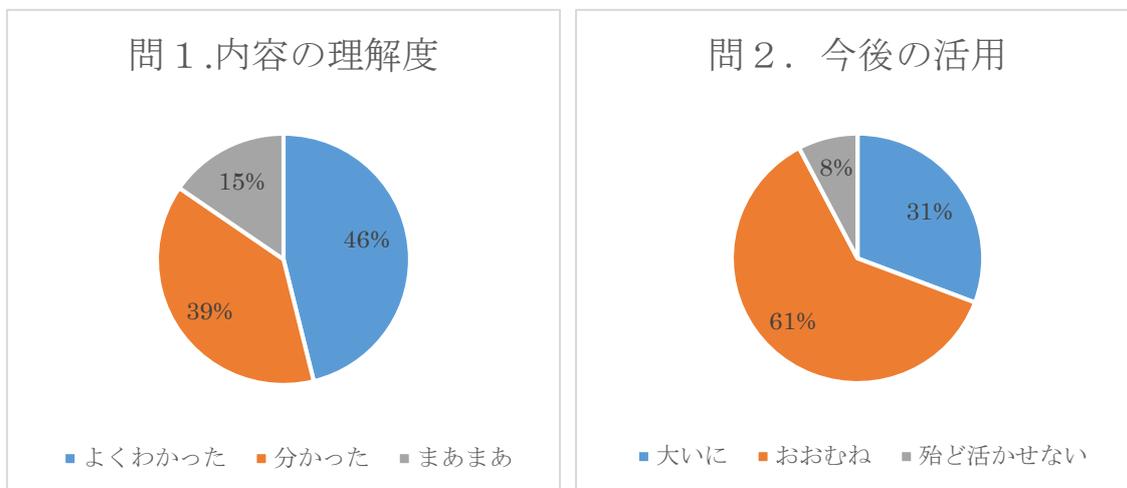
## 9. アンケート結果

参加者 20 名のうち、アンケートに回答していただいた方は 13 名でした。アンケート回答率は 65%です。

### (1) 参加者属性



(2) セミナーの内容について



(3) 内容に関する主な自由回答

- シビックテックなどに興味があり市民により進められるまちづくりについて知りたかったので、非常に参考になりました。
- プロボノ活動している息子に勧められて参加してみました。
- 他府県に住んでいる孫が保育園に預かってもらっているので関心がある案件 緑化運動推進地域で優勝もした団地に40年近く住み草津の住民歴 50 年近く。街造りにも興味あり。
- 奥村先生の話はおもしろかった。原課の方の熱い思いが聞けてよかったです。
- 市職員の生の声が聞こえて草津市は開かれていると感じた。
- 地域課題とその取組方法がわかって参考になりました。

以上